

20.09.03～08 初秋 北海道

9月3日夕方新千歳着。
近くのアブラムシPを見てから様似に向かう。
(これについては最後のスライド参照)

翌日のアポイ～忠類は、永盛さんのPDFに詳しいので割愛。
W御大を層雲峡まで送った後を紹介。

上雨紛9/6



コキマダラセセリの継続。
←少し時間がかかったがようやく発見

裏にして巣を開けて見ると→

このように細かく吐糸されていて、どうも眠の状態らしい。
吐糸は開けずに撮影だけ。



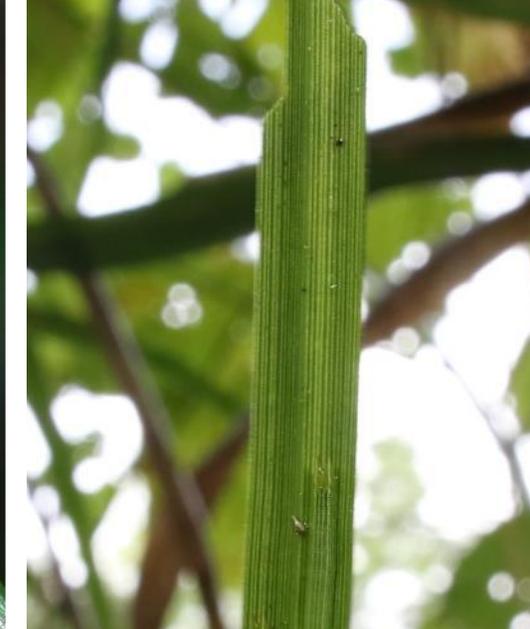
前回永盛さんが産卵を見たオオヒカゲの幼虫を探す。
食痕を頼りに…。↓ようやく一つ。集団でない？

雨具がずぶぬれの中、なかなか思うように見つからず。
…と、何か…。「蛹だ！」 羽化できなかった蛹か？



上雨紛9/6

この時期の
オオヒカゲ幼
探索は初め
ての中、なか
なか思うよう
に見つから
ず40分・・
ようやく食痕
らしきものが
→



裏返してみると、やはりオ
オヒカゲ
3頭の幼虫

ようやく
発見できた。

う～む縦横
葉脈にそつく
りな体色・体
形。



9/6厚真:その後、日高の林道に行くも、カラタカの巣は追えず、エゾツマ・ウラジャノメの幼虫も見つからずで、四時間くらいで退却。厚真へ。夕方なのでまずは前回の(もしかしてキマダラセセリ?)幼虫を。

巣を少し開けて見ると、突然中から幼虫が出てきて、そのまま歩き始めた。巣を開けられて、放棄した模様。
15分以上歩き、一枚の葉に静止、これから巣作りか？



9/7別の幼虫・巣で興味深かった場面

巣を開けると幼虫が脱糞→

10cmを超える大きな巣↓



巣を補修? 拡張? して吐糸している幼虫↓



同様の幼虫を複数確認できているので、今後
も楽しみ。

9/7厚真:一番の目的はキマダラモドキの産卵シーンだが、結局見ることはできなかった。
その間、ゴイシシジミの幼虫探索を行った。



↑小さな巣を破った中にいた
1齢?幼虫。
頭を左右に振って、吐糸して巣
を修復しようとしている。→→



↑アブラムシの中の
巣を破ると中から歩
き出した2齢幼虫。
毛が長い。→→



9/7厚真：葉裏によろやく見つけた大きな幼虫。ササの葉は周りが枯れてきている。



←↑よろやくみつけた
3齡幼虫。
緑色をしている。

毛むくじゃらの終齡→
少しずつ移動し、アブ
ラムシを食べようとし
ていた？が確認でき
なかった。



9/7厚真:何枚裏返しても発見できなかった蛹。調査終了間際の成虫飛翔撮影時、偶然発見。



←葉の裏に蛹がついていた。
かなり周りの枯れている葉だった。
(幼虫時代があるのだから当然か...)

蛹の下には終齢時代の皮が残っていた↓

近くの葉の上に前蛹も発見！運が良かった。



9/7厚真:ゴイシ幼虫とアブラムシ



↑少し大きめの巣(大小さまざま&カーストのアブラムシがいるコロニー中にあった)

(上右)巣の周りは兵隊アブラムシがたくさん歩いていることが多い。



前出の3齢幼虫。薄く張った巣の上に死んだ? 兵隊アブラムシがいる。

幼虫の後ろにはアブラムシの残骸か? ↓



9/8植苗：苫小牧にクモガタヒョウモンの産卵を見に行くが、クモガタ見られず、帰り支度も兼ね植苗アブラムシPへ。



↑ 去年の写真

この時もアブラムシがたくさんいてゴイシを期待したが見られなかった。

今回は3日夕に暗い中飛ぶのを見ることができたので、今回期待して見に来た。



↑ 今年の写真

昨年と比べるとアブラムシが繁殖して半枯れ状態のササ面積が大きく増大。

去年の中心部はこのようにササが枯れて、相対的に凹地になっていた。→→→



9/8植苗：ササに入っていくが見られず、何度も巡回してようやく1♀、2♂を見ることができた。(左から♀、♂、♂)



↓葉の裏を見ると幼虫の巣も見ることができた。



この秋～来年にはどうなっているのだろうか？

道を挟んで向かい側にもアブラムシがたくさんついているササがあったが、ゴイシは見られなかった→

まだ来ていないのか、微妙な環境の不具合があるのか？

こちらでも継続観察が面白そうだ。



あまり成果のある調査行にはならなかったかも...だが、それなりに楽しむことができた。

ゴイシ特集になってしまった(笑)。

継続して見ていきたい。

次は10月初め。